

## 私の人生、思うままに生きたい

～これからの寄り添うケアとは？ Aさんの人生に触れて～

社会福祉法人 ひかりの園  
 養護盲老人ホーム 第二静光園  
 支援員 中津 明  
 施設長 渡邊 真也

1

## 第二静光園の紹介

現在の浜松市浜名区都田町の地に視覚に障がいを持つ高齢者の施設として、昭和57年4月12日に開園し、44年目を迎える静岡県で唯一の養護盲老人ホームです。

施設の名前の由来は創設者の願いや思いが込められ、`誰のもとにも光が降り注ぐように、と、`静、かな`光、と付けられました。

ご利用されている方々は、視覚障がいを抱える60歳以上の高齢者が中心で、広く、静岡県内からご利用されています。

建物は一部2階建て、居室は全室二人部屋、回廊式の空間となります。特徴としては視覚に障がいを持つ、ご利用者が人目を気にせず、ご自分のペースで目の不自由さを感じさせない、安心と安全が提供された環境で、暮らしています。

2

## ～はじめに～

この数年、当施設をご利用されるご利用者の年齢層が大きく変わり、昭和30年前後生まれの方々が中心になりました。言葉の掛け方、対応方法一つでもこれまでとの`違い、を感じるようになりました。介護の倫理とは？「どう生きるのが望ましいのか」、「どのような介護・支援を行うことが望ましいのか」私たち職員に問いかけられます。今回、対象としたご利用者は視覚障がいを持ちながらも、生活全般は自立され、ご自身で自分の主張や意思を伝えられるご利用者です。繰り返し、生活に対する不満や時代のニーズを主張します。その不満やニーズを解決してもまた次の生活に対する不満を主張され、不満が尽きない日々、時間を過ごしています。毎日、生活に対する不満が消えることがなく、当たり前な生活を送りたいと願う、ご利用者と年齢や経験年数の違う職員が関わり、明日につながるケアに向き合った養護老人ホームでの実践事例になります。

3

## 対象者紹介

- Aさん 73歳 女性
- 入所年月 : 平成28年 8月
- 既往 : 左股関節骨折 平成8年  
 両足人工股関節置換術施行  
 緑内障 平成20年  
 (※うつ病…本人から病院にかかったと言う)



4

障害者手帳取得 : (障害者手帳1級)  
 緑内障による視力障害 平成27年12月2日  
 (身体障害者手帳 3級)  
 両側変形性股関節症 平成18年

現病歴 : 両側変形性股関節症

視力 : 右が手動弁 左が0.01以下 現在は全盲

5

入所経緯 : 平成23年頃～緑内障による視力障がい(右:失明 左:0.01)と悪化。この頃に長男が結婚すると長男夫婦との折り合いが悪くなり、いろいろなトラブルが絶えなかった。長男夫婦との折り合いは間に行政や包括支援センターが介入したが、改善されることはなく、平行線のまま、長男夫婦との同居は避難し、兄弟たちの下に。

平成27年 視力低下がさらに進み、障害者手帳1級を取得、このことをきっかけに本人も希望されていた視覚障害の施設への入所となった。

6

性格(人柄) : おおらか 強いやきもちやき \*意思疎通・意思伝達もできる。  
 話せば、ある程度のことは理解できる。

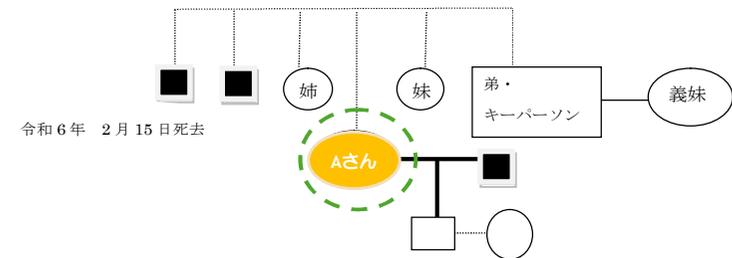
日常生活動作(ADL) : 施設内での環境では自立  
 (移動) 不安な時に誘導介助している

手段的日常生活動作(IADL) : 洗濯やシーツ替え、居室清掃は自分でしている  
 居室は一人部屋で対人関係に配慮されている

対象とした動機 : 毎日のように不満の主張があり、申し送られている。  
 自分を責めたり、諦めたような発言を繰り返すが、言葉の中に希望(期待)を持っているから本人の訴え(繰り返す不満)と向き合うことで生活の変化を期待しました。

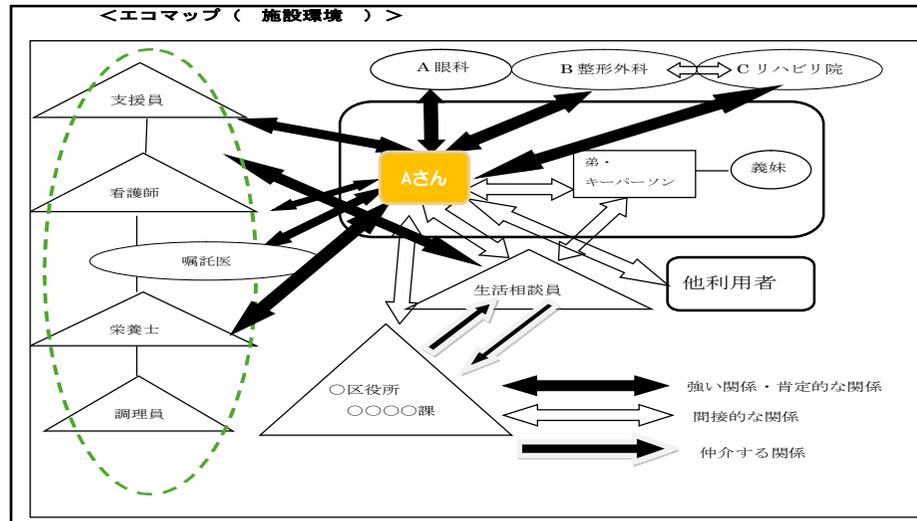
7

### <ジェノグラム(家族構成)>



家族の役割として身元引受人の弟様夫婦が受診の付き添い援助を協力してくれている

8



9

### Aさんの課題に対して特に**関わりが必要**とされる課題の抽出

- ① **視覚障害**から常に周囲の情報が必要以上に気になり、物音でも耳に入れようとする。特定の他利用者やリハビリの先生が情報元となり、自分の中で思い込みを強くしてしまう。
- ② 相談事があると傾聴するにも1時間、2時間と長い時間かけて自分が納得できるまで主張を繰り返す。
- ③ 最近、思い入れていた親しい利用者が亡くなった。また同時期に実兄も亡くなられ、強い気分の落ち込みがある。
- ④ お墓参りに行きたい、会いたい人に会いたい、買い物に出かけたい、映画館に映画を見に来たい自分のタイミングですべて自由になりたい。と強く希望する。
- ⑤ 声を掛けられないと、とにかく「私はないがしろにされている」、「見えていないからそれを良いことに私を避けている」と、よく口癖ように指摘される。
- ⑥ 自分は「うつ病、にかかったことがある。という認識が強く、またいつかかるかわからないという不安な思いで暮らしている。

10

### これらの課題に対する支援方針の分析

#### ■生活上の課題について

- ◎ 性格的な要因
- ◎ 元気な時に外出や美味しいもの食べたい、会いたい人に会いたい等、映画を見たい訴えから焦りがある。
- ◎ 親しい利用者やリハビリの先生からの情報源
- ◎ 諦めた発言を繰り返す
- ◎ 対職員の関わり方
- ◎ 何に対しても比較して考えしてしまう

#### ■支援方針について

- ◎ 人間関係に配慮する
  - ◎ 外出等、希望に対して
  - ◎ 視覚障害者の理解
  - ◎ 対人援助関係
- ⇒ ◎一人の「人」として受け入れる

11

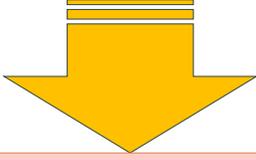
### 【支援方針】一人の“人”として受け入れる

生活歴や過去の経緯から

#### 「一人の「人」として受け入れて、もらえない、愛情や承認の欲求が強いのでは？」

- Aさんが持っている性格的な部分 人への嫉妬心が強い
- 周囲からの疎外感
- 子どもを授かった時に夫から暴力を受けた過去がある
- 対話の中から繰り返し言葉に、「私はどうせバカですから」、「皆さんと違って学がない」、「私ばかり…」、「私はどうせ…目が見えないから」、「何を言われても目が見えません」等、劣等感、ひがみが強い
- 入所前に家族から虐待【介護放棄（ネグレクト）】を受けていた、家族関係が良好な関係ではなかった

12



人間らしさを尊重して「あなたはとても大切な人です」、「あなたはここに居ていいんです」というメッセージをケアを通じて伝えていく

13

### メッセージを伝えながら

視覚に障がいがあっても同じ目の高さで見る 相手に対して正直でいること	触れる 優しい、やわらかく包む感覚
傾聴 安定した関係でいること	移動支援 安全と安心

14

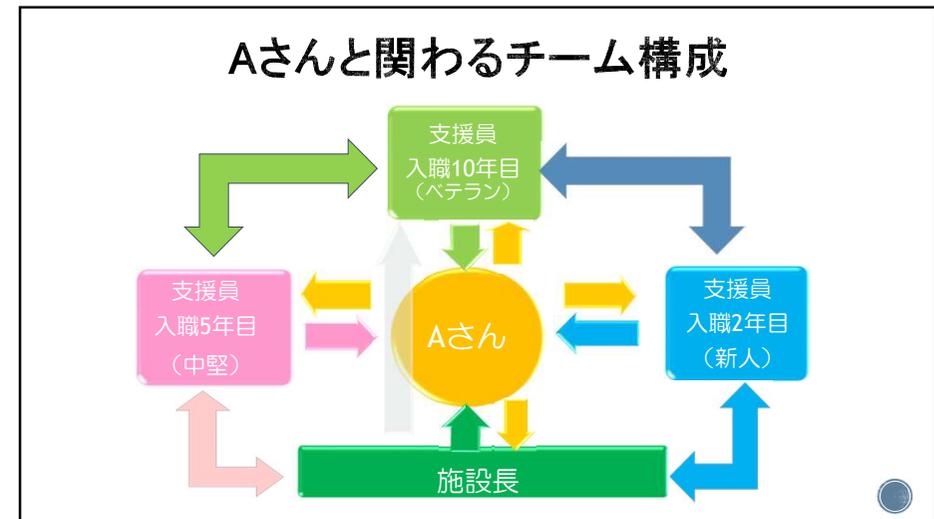
### 具体的な実践…

実践のねらいはとして…

「 ライフストーリーを共有し、何を求めているのか、今ある課題を解決しながらAさんの望まれる生活を実現する 」

- ・身近な存在になれるように支援する
- ・安心感を持てるように関わる
- ・視覚障がいを理解する
- ・自分の人生を思うように生きたい、気持ちを支える
- ・経験年数の違うそれぞれの職員の成長

15



16

## 実践1～ 入職2年目の支援員

### 課題

- ・ 今まで以上の身近な存在となるように出勤時は以下に示したことを気にして挨拶してみてください。必ず本人の反応を見てください。

注)「Aさんのことを大切に想っています」というメッセージを直接言葉にして伝えるのではなく、日々、挨拶しながら少しずつ良いですので、大切に想っているという気持ちになって伝えてみてください。

### 関わりを持つときに気にかけること

- ・ 近くから見ること ⇒ 「親しい関係であること」
- ・ 同じ目の高さで見ること ⇒ 「平等な存在であること」
- ・ 正面から見ること ⇒ 「相手に対して正直であること」

17

## 実践2～入職5年目の支援員

### 課題

- ・ 見る

今まで以上の身近な存在となるように出勤時は以下に示したことを気にして挨拶してみてください。その時、必ず本人の反応を見てください。

- ・ 触れる

食堂、入浴等で本人を誘導する時、触れ合います。敏感な部分を強くつかんだりせず、安心感を与えるように触れ合って誘導し、手擦りにつかまった際、安心できる言葉をひと声掛けてみてください。その時の反応を見てください。

注)「Aさんのことを大切に想っています」というメッセージを直接言葉にして伝えるのではなく、日々、挨拶しながら少しずつ良いですので、大切に想っているという気持ちになって伝えてみてください。

### 関わりを持つときに気にかけること

- ・ 近くから見ること ⇒ 「親しい関係であること」
- ・ 同じ目の高さで見ること ⇒ 「平等な存在であること」
- ・ 正面から見ること ⇒ 「相手に対して正直なであること」
- ・ 本人に触れる際は優しく触れることを意識し、強くつかむことはしない。 ⇒ 「安心感を与える」

18

## 実践3～入職10年目の支援員

### 課題

- ・ 見る

今まで以上の身近な存在となるように出勤時は以下に示したことを気にして挨拶してみてください。その時、必ず本人の反応を見てください。

- ・ 触れる

食堂、入浴等で本人を誘導する時、触れ合います。敏感な部分を強くつかんだりせず、安心感を与えるように触れ合って誘導し、手擦りにつかまった際、安心できる言葉をひと声掛けてみてください。その時の反応を見てください。

注)「Aさんのことを大切に想っています」というメッセージを直接言葉にして伝えるのではなく、日々、挨拶しながら少しずつ良いですので、大切に想っているという気持ちになって伝えてみてください。

- ・ 話す

何回か、本人と話す時間を待ちましょう。本人の話を聞いてみましょう。

### 関わりを持つときに気にかけること

- ・ 近くから見ること ⇒ 「親しい関係であること」
- ・ 同じ目の高さで見ること ⇒ 「平等な存在であること」
- ・ 正面から見ること ⇒ 「相手に対して正直なであること」
- ・ 本人に触れる際は優しく触れることを意識し、強くつかむことはしない。 ⇒ 「安心感を与える」
- ・ 低めの声 ⇒ 「安定した関係であること」
- ・ 大きすぎない声 ⇒ 「穏やかな状況」
- ・ 前向きな言葉を使う。語彙力を高める。

19

## 実践4～Aさんにライフストーリーインタビューを実行

- 質問1 入所前の暮らしは？  
\* 後に記しています。
- 質問2 ご家族との思い出は？  
\* 事情ありますが、一部は後に記しています。
- 質問3 毎日の日課にしていたことは？  
「今はリハビリ、立つこと。若いころと違って、長生きしたいからそのためにできることをする。」
- 質問4 好きな食べ物？  
チーズタルト、「遺言、もしもの時はチーズタルトを食べさせて。」

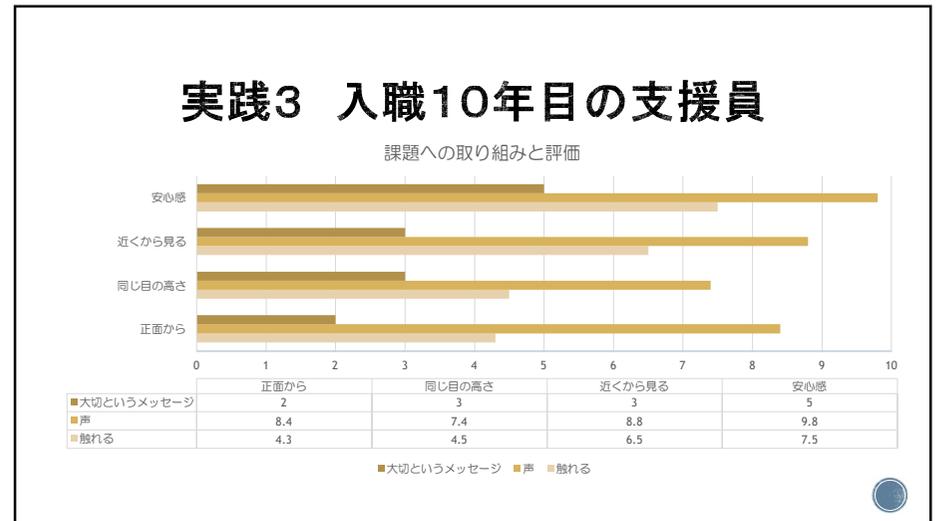
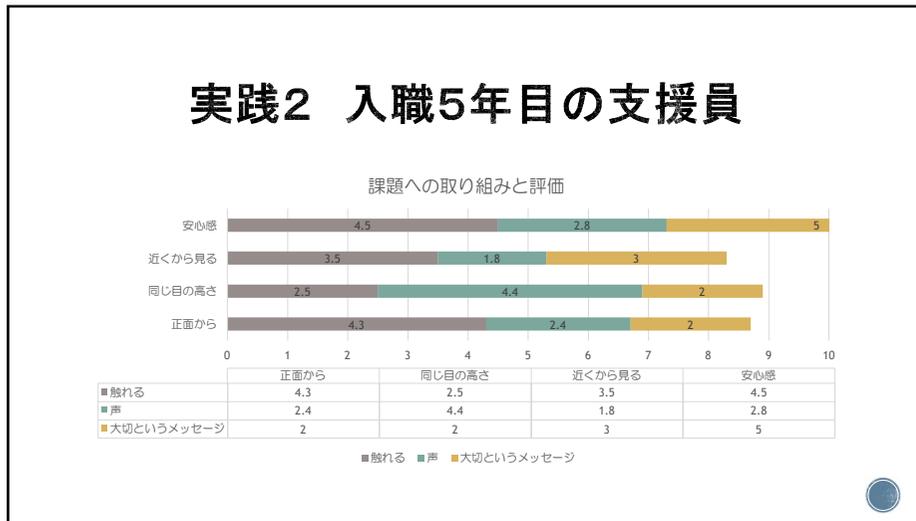
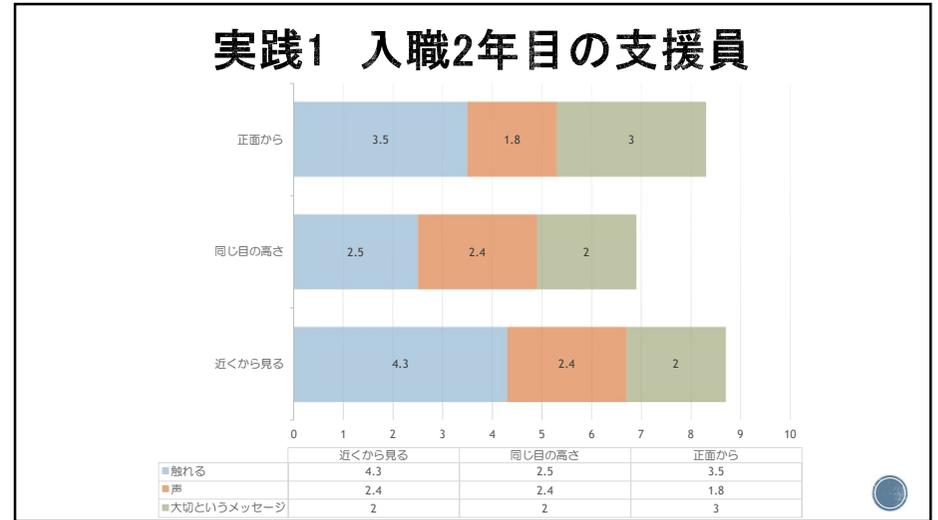
20

**Aさん 1ヶ月評価表 (4/3~5/2)**

日付	時間	場所	声掛け内容や対応	反応・態度
4月3日(水)	6時15分	実室前廊下	挨拶をし、「毎日、カーテン開けありがとうございます」と声を掛ける。前に、軽く手を振る。	挨拶には、笑顔で、「こちらこそ、いつもありがとうございます」と言われ、その、カーテンのやり方は、彼なりに覚えていたからよぶよぶ言われ、少し、嬉しい様子が、見える。
4月9日(金)	7時15分	実室	「おはようございます」と挨拶をし、両手をつなぎ、挨拶まで誘導する。	「おはようございます」と挨拶され、笑顔に答くと、「ありがとうございます」と言われ、少し、機嫌が良い様子が、見える。
4月9日(金)	7時30分	実室	直後、席から、立ち上がった為、両手をつなぎ、席下に誘導する。	「前から、怒れてくる事があった」と言われる。内容は、話さなかったが、ありがとうございます。笑顔で返される。
4月9日(金)	11時45分	集客室前廊下	集客室に向かっていたが、すぐ前に、他利用者音が響いた為、両手をつなぎ、実室まで誘導する。	驚かされて、ありがとうございます。ぶつかってよかつたよと言われ、元気の様子で、不機嫌な様子は、見られない。
4月10日(土)	12時10分	実室	直後、席から、立ち上がった為、両手をつなぎ、席下に誘導する。	「前に、〇〇は、悪くないね」と、少し高い口調で言われる。〇〇とは、〇〇の事、悪くない事を出すと、「悪くないから」と言われる。
4月11日(日)	21時00分	いちよう居室	就寝の挨拶に伺う	挨拶をすると、起きており、「おやすみなさい。また、いろいろ話を聞いてね」と言われる。
4月12日(月)	6時00分	いちよう居室	起床の挨拶に伺う	挨拶をすると、大きな声で、「おはようございます。今日も、よろしくお願ひね」と言われる。
4月14日(日)	6時45分	いちよう居室	「話したい事がある」と言われた為、継続する。	「前に、〇〇さんが、実室前の洗面所に来るのが、早すぎる」と、かなりの怒り口調で言われる。「言っただけけど、もう1度、注意しておいて」と言われる。
4月14日(日)	11時45分	実室	実室前まで、来られた為、実室まで、両手をつなぎ、挨拶する。	不機嫌な様子で、「ありがとうございます」と言われる。椅子を引き、席へ戻り、椅子を動かしてあげたら、「そこまでして来てあげると言われる。
4月17日(水)	12時10分	実室	直後、席から、立ち上がった為、両手をつなぎ、席下に誘導する。	「話を聞かせて、おんじの話を。また、話を聞いておくと言われる。他利用者が受かった為、本人の、実室前まで、整理し、席室の中で、話せばいいから、おんじの話を聞け、何も言わずに、始めて、どこかに行ってしまおう」と言われる。
4月20日(土)	14時10分	集客室	カラオケ練習の最中	「さんに対して、相手に聞こえない程度で、うるさいな。静かにして」と言っている。その後、機嫌が悪く、他利用者(さん)を巻き込んで、話を聞かせていたが、自分には、他利用者が、話を聞いている時は、しゃべらないように伝える。他利用者の友達でも、話していたつもりも、怒りが収まらない様子だったので、短時間継続すると、落ち着かれる。

**<1ヶ月のモニタリング>**

「Aさん」と声を掛けると、声のトーンで、機嫌が良いか、不機嫌なのかわかります。少しの事でも、気になり、怒れてしまう性格だと思います。話を継続する事によって、本人より、言いたい事を、すべて言えても、気持ちが収まらず、「あの、ここから出せばいいじゃん。居ると、めざわり等」と、かなり、相手に対して、ひどい事を言ってしまう事。こちらが、「注意しますから」と言っても、信用していない様子。ご本人は、嫌かもしれませんが、職員が中に入り、善手な方と、話をさせてみては、どうでしょうか。仲良くなるかもしれない。その話かもしれませんが、善手な相手に対して、Aさんの、今、思っている事すべてを伝えれば、気持ちも、少しづつですが、穏やかになるのではないかと思います。以前の話ですが、好きな利用者、職員に対しては、「嫌いな」と思っていると言っていました。Aさんと、毎日、会話している利用者は、好き、うるさく、大きな声の利用者は嫌いだと思えます。いろいろな事を試していったらどうでしょうか。例えば、手をつなぐと、「安心する」と言っていました。嫌いな、利用者と、手をつないでみるのも、いいかもしれませんね。嫌いな利用者との、ドライブも、試してみたら、いいかもしれませんね。何かの、きっかけで、ご本人の、気持ちが穏やかになり、充実した生活を送れるようになるのではないかと思います。



## 経過の中で・・・

- ・2024年 2月 実兄が死去
- ・2024年 3月 Aさんが大切にしていた利用者が死去
- ・2024年 5月 入所当初から親しく相談したり親しく付き合ってきた利用者が死去

実兄に続き、親しくしていた利用者が突然、次々に亡くなり...

「生きていることが嫌になった」  
 「なんで私を置いて、みんな逝ってしまうの？」  
 「生きている価値がなくなった」

**激しい気分の落ち込みがあった。**



25

受け止めようにも気持ちが  
 “ゆらぐ、だけで精一杯で  
 その場を無言で寄り添った。  
 ただ時間だけが流れた

26

## 悲しい出来事だけではなく・・・

- ・入所以来、音信不通だった長男と突然、会うことになる
- 第二静光園入所していることは入所当初、キーパーソンと行政の約束で所在が伏せられています。長男は高齢者施設で暮らしているだろう・・・
- \*今回、会うことについてはキーパーソンである実弟様に許可を得ました。
- 2024年2月 Aさんより長男と話がしたい...気になる...胸騒ぎする... 相談があった  
 電話を掛け、声だけでも聞いてみることにした。  
 10年ぶりに “声、” を聞くことができ、感激していた。  
 少し、わだかまりがとれた感じでした。
- 5月 長男に「会えないかな」との相談に、手紙を書いている  
 ことになり、対応した。
- 6月 10年ぶりに長男と対面を果たすことができた。



27

電話で話ができただけでも心躍っていたが、実際に会えたことが何より嬉しかった。「今までにつらかったことが少しは晴れた。」でも...「体調が良くないこと言っていたからまた心配になった。」と新たな心配ができましたが、次回また会える約束ができ、つながることができた。

28



29

## 実践を通しての考察

- 3名のそれぞれ経験年数の異なる支援員が中心となり、それぞれの役割と課題と向き合いましたが、Aさんの言動に対しては今日現在、取り組んだ結果としては大きく変わることはありませんでした。
- 評価としては「形」としては表れにくく、繰り返される「不満」の言動に先がわかりづらく、見えにくいいため、途中で挫折したこともありました。
- 一人の人として言動を受け止めたり、直接、言葉としては伝えませんでした。心の中で「あなたのことが大切です」というメッセージを接する際に繰り返し、意識して関わってきました。その結果、距離がこれまでより身近な関係になり、Aさんの発した言動を『不満』と受け止めてきましたが、自然と『不満』ではなく、一人の人が発した『言葉』と受け止められるようになり、記録や申し送りの場面でも『不満』という言葉や文字ではなくなり、気持ちで受け止められるようになりました。コミュニケーション技法として成り立つと思います。

30

- Aさんは『不満』を主張して、周囲を困らせているのではなく、Aさん自身が困っている。という気持ちに気づくことができました。
- Aさんのライフストーリーを知り、理解を深めることにより、日常のコミュニケーションがとりやすく、Aさんからもコミュニケーションがとりやすい環境・関係を作れました。
- 「触れる」という行為は『優しく、包む』をイメージしながら接することで、安心感を与えます。特に視覚障がい者の方はこの行為は敏感です。今回の取り組みから「改めて安心する触れ方、手順の確認ができました。最初に声を掛けて、ゆっくり手に触れ、触れ合った瞬間に包むように握るととても安心を感じてくれます。
- 会いたい人の一人、長男とは現在も面会を通じて関わり、長男との関係が良好になり継続中です。買い物については施設内に移動販売が入り、手に取って、買い物できるようになりましたが、その他の希望は叶えられていません。今後の課題です。

31

「人生終わるまでに言いたくないことを家の人以外の誰かに話したかった。いつか話せる人に出会えたらいいなあ〜ずっと思ってきた。自分の真実、本当の私のこと知ってほしかった。子どもの頃、普通学級に入れてもらえなかった。つらかった。妊娠中に悲しいことがあった。息子に見放された。これが一番悔しかった。最後に目が見えなくなった。これが私の人生・・・

でも・・・やっと人に言いたくなかったことを話せる人たちに出会えた。ずっと胸につかえていた。この人なら安心して話しても良い、私のこと知ってほしい、と思える人に出会えた。

これで人生終われる。ありがとう。」

ある日の会話ですが、この話が終わる瞬間、これまで見たこともないような安堵した表情を浮かべていた。

32

## おわりに

今回の取り組みを通じて、視覚障がいについては視覚障がいを理解しようと思わなければ、視覚障がい者のことは一理解できないということに気づかされる、取り組みでもありました。

視覚に障害があることで、関わる職員が声を掛けなければ、その日、一日声を掛けられることもなく、時が過ぎていきます。Aさんをはじめ、ご利用者は職員から今日も挨拶を交わしたいと待っていてくれます。そして必ず、夕方には「明日来る？」と声を掛けてくれて、安心を求めてきます。でもその言葉や期待する気持ちは職員から発信し、関わらなければ、いたらない貴重な言葉です。

不満は不満ではない、困らせているのではなく、困っている、この視点がこれからの寄り添うケアに近づけることも垣間見れたような気がします。ご利用者との寄り添い方を大切に明日もまたさまざまな課題と向き合っていきます。



33



34

## 参考文献

- ・ イヴ・ジネスト著 本田美和子著 (2022) 『ユマニチュードへの道 イヴ・ジネストのユマニチュード集中講義』 誠文堂新光社
- ・ 大島寿美子著 (イヴ・ジネスト監修 本田美和子監修) (2019) 『「絆」を築くケア技法ユマニチュード 人のケアから関係性のケアへ』 誠文堂新光社
- ・ イヴ・ジネスト著 ロゼット・マレスコッティ著 (本田美和子日本語監修) 『「ユマニチュード」という革命 なぜ、このケアで認知症高齢者と心が通うのか』 誠文堂新光社
- ・ 尾崎新著 (1999) 『「ゆらく」ことのできる力 ゆらぎと社会福祉実践』 誠信書房
- ・ 渡辺一史原案 (橋本裕志脚本) (2018) 『こんな夜更けにバナナかよ 愛しき実話』 文藝春秋
- ・ 渡辺一史著 (2013) 『こんな夜更けにバナナかよ 筋ジス 鹿野靖明とボランティアたち』 文藝春秋



35